



題字 井口 文章
再刊 第526号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2026

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面…錦城祭 各団体の企画準備が進む
写真部&新聞委員会 全国大会へ
二面…倉林先生から英語を学ぶ講演会実施
陸上競技部 陸上大会出場してきました！

『共鳴波動』全企画出そろう

今年の錦城祭も目白押し！

9月12日(土)、13日(日)に開催される錦城祭まで、残り2か月を切り、多くの部活動やクラスで準備が進められている。その様子や、実行委員長の意気込みを取材した。(菊・桃)

放送部 アリスが錦城に？

放送部は「Alice in Kinjo 三三 school」紙芝居 feat. 放送部」を企画していると話すが、部長の山田歩武さん(2G)と徳永愛香さん(2J)。脚本からイラスト、公演まで全て部員が行う予定だそう。不思議の国のアリスをもとにした、アリスが錦城に来ちゃうというオリジナルストーリーだ。

生物部 かわいい動物で魅了

毎年大盛況を見せる生物部



ふれあい企画に登場予定のクレストッドゲッコーさん

何回かに分けて公演が行われ、各回でキャストが違うのを楽しんでほしいと話すが、先生方がキャストとして参加するかもとのことだ。2人は今回の企画に対し、「錦城祭一番のエンターテインメントを創り出します！」と力強く意気込んだ。

新聞委員会 AIの錦城部活

新聞委員会は、「錦城新聞採録記」現在社会の波を乗りこなせ！」を企画していると話すが、部員の植月千智さん(2E)。速報発行やテーマに沿った新聞展示のほかに、文藝部・写真部・放送部とコラボして企画を行うそう。錦城のアツい部活動と生成AIが同テーマで作品を製作したら、どちらが魅力的なのかを比較す



夏休みに準備進めて

動を予定しているという。

今年のテーマの「共鳴波動

にもあるよう、来場者の方々

に自然な錦城生の姿が波のよ

うに伝わるような錦城祭にし

たいと語る和田さん。実行委

員の審査は通ったが、保健所

からの指摘で変更が必要なク

ラスがあり、再度企画を練っ

てもらっているという。「大変

なことの方が多いけれど、企

画の内容を確認できるのは、と

実行委員ならではの、と

とても楽しいです」と話す。昨

年と同じように今年もお化け屋

敷を予定しているという。

今年のテーマの「共鳴波動

にもあるよう、来場者の方々

に自然な錦城生の姿が波のよ

うに伝わるような錦城祭にし

たいと語る和田さん。実行委

員の審査は通ったが、保健所

からの指摘で変更が必要なク

ラスがあり、再度企画を練っ

てもらっているという。「大変

なことの方が多いけれど、企

画の内容を確認できるのは、と

実行委員ならではの、と

とても楽しいです」と話す。昨

年と同じように今年もお化け屋

敷を予定しているという。

今年のテーマの「共鳴波動

にもあるよう、来場者の方々

に自然な錦城生の姿が波のよ

うに伝わるような錦城祭にし

BREAKING NEWS
七夕に向けてラーニングスペースに笹の葉が飾られていた。探究部主任の奥嶋先生が探究スペースに遊び心で置いたものだろう。勉強やテスト関連の願い事が多かったが、皆さんの願い事は叶いましたか？
職員室で願い事！

写真部&新聞委員会 全国大会出場へ！

この夏休みに錦城からは、前号裏に載せた弓道部、映画研究部、将棋部のほか、写真部、新聞委員会が全国大会に出場する。

写真部 「実力を示していけるように」

写真部は、7月26日(日)から30日(木)にかけて開催されるあきた総文写真部門に7名が出場。7月12日(日)に行われた第48回 東京都高等学校文化祭 写真部門 中央大会で年間最優秀賞受賞の繁原里織さん(3K)の作品「午後の影譜」。球大の様子を撮影したもので、コートラインが譜面で生徒とその影のびる様が音符のように工夫したという。また、モノクロ加工でコートラインが目立つようにしたと話す。カメラに触ったのは高校からだったという繁原さん、「最初は何も分からなかったけれど、楽しく活動できました。もう少し先輩と交流していたら良かったです」と語る。「楽しく撮れば自然と良い写真が取れると思います。とにかく楽しんで活動してほしいです。頑張ってください」と後輩にエールを送った。

写真部提供「Fragmented Tokyo」

年間優秀賞を受賞した内山夏菊さん(3E)の作品は「Fragmented Tokyo」。この作品は東京の風景を撮影した10枚の作品から成る。東京の他人への興味のなさを表現できるよう工夫したという。三年間を振り返って、「思い残したことはないです。とにかく楽しめたので良かったです」と話す。「とにかく楽しんで、センスで頑張ってください」と後輩にメッセージを残した。今後の写真部について次期部長の渡邊昂さん(2B)は「3年生がいなくなった後も、実力を示していけるように頑張ります」と力強く語った。

新聞委員会「楽しんでもらえるためのヒントを得たい」

新聞委員会は、7月28日(火)から31日(金)にかけて開催されるあきた総文新聞部門に出場。今年で19年連続の出場となる。委員長の飯田夏乃香さん(2I)は、新聞は取材を受けてくれる存在、新聞を読んでくれる存在がいないと成り立たないと感じているようで、錦城生に感謝を伝えたいと話した。また、今回のあきた総文に向けて、「全国から集まってくる新聞部員みなさんと交流し、ともに新聞を製作することで、より錦城高校新聞が楽しんでもらえるためのヒントを得ていきたいです」と意気込んだ。中村遼太さん(2A)は、「総文に参加するのは始めて緊張しますが、精一杯頑張ります」と微笑む。中村さんによると、新聞委員会は大変なことも多いが、その分やりがいがあると大きいという。また、アットホームな空間で、毎回の活動がとても楽しいそうだ。新聞委員会編集部では、現在も部員を大募集しています！ 興味のある方はぜひ、新校舎七階にある、編集室まで！！

(菊・桃)

グラウンド拡張工事進んでいます！

校長先生「今年11月頃に完成予定」

6月22日(月)放課後、現在進められているグラウンド拡張工事について阿部一郎校長先生に進捗状況と教育環境の整備に込めた思いをうかがった。校長先生によると今回の工事では人工芝のテニスコート二面分と、ハンドボール・バレーボール・フットサルなど様々な競技に対応した多目的コートが新たに整備される。現在は工事車両の通行路を確保するためのフェンスも完成している。新グラウンドは2026年11月頃に完成予定



グラウンド拡張工事 進行中

とのことで、体育の授業だけでなく昼休み開放なども予定しているそうだ。「人工芝は降雨後も良好な状態が維持しやすく、球技大会などが実施できる利点があります」と校長先生は人工芝を採用した背景を語る。人工芝は従来のグラウンドに比べて柔らかく、運動部の怪我のリスクを軽減した安全な活動も期待できる。校長先生は錦城生に「新グラウンドは部活

動だけでなく、授業や昼休みにみんなが楽しく気持ちよく使ってくれと嬉しそうです」と期待を寄せた。

現在工事は、グラウンドの一部を閉鎖して工事用トラックや資材を運搬しているところだ。グラウンドを使用するときは安全に気を付けてください。また、作業を支えてくれる、工事関係の方々への感謝や挨拶も忘れずに過ごしてください。(小)

イヤホン使用ルール改正

代議「マナーを守って使って」

今年6月に校内でのイヤホン使用のルールが改正された。ルール改正を主体となつて進めた、代議委員会委員長

の鈴木耕太さん(2H)によると、校内におけるイヤホン

使用が許可されたのは、放課

後の自習において学習ツール

を有効に活用できる環境を整

えるためだそう。あくまでも

学習のために許可されたもの

であるため、音楽や映画鑑賞

等での使用は禁止されている

。放課後自習の際に動画教

材や音声教材を使いたいとい

う要望があり、3年程前から

ルール改正に着手していたそ

うで今回ようやく実現できた

のだという。

鈴木さんは「イヤホンが使

えるようになったからには、

TPOをわきまえて、マナー

を守って使ってください」と

話す。使い方がひどかったり、

ルールを守らない人がいたり

した場合、全面禁止に戻す可

能性があるそう。詳しいルー

ルは各教室に掲示されている

ので今一度確認してみよう。

現在代議委員会は、アンケ



学習ツールを有効活用して

あきた総文祭行ってきます！

新聞委員会と写真部は、7月12日(日)に東京都議会議事堂で行われた、第49回東京都高等学校文化祭総合開会式兼第50回全国高等学校総合文化祭壮行会に参加した。推薦状交付の新聞部門と写真部門、部門紹介の新聞部門に錦城生が登壇し、全国大会への士気を高めた。



精一杯頑張ります！！

むらさき草

どの界限にもアンチというのは存在する。それがアイドル界限でもスポーツ界限でも「アンチ」とは特定の人物や作品に対して批判的な態度を取る人のこと。些細なことが気に入らないという思いから誹謗中傷をしてしまう人がいることを、SNSやニュースで見たことがある。誹謗中傷は犯罪にあたる可能性がある。誹謗中傷の法律上の判断には刑法と民法の二つの基準がある。刑法ではそれが名誉棄損罪や脅迫罪などに該当するか、民法で権利を侵害していないかを判断する(参照：咲くやこの花法律事務所「どこから誹謗中傷？法律上の判断基準を具体例付きでわかりやすく解説」HP参照)▼どんな思いがきっかけであれ、人格否定や存在否定まで至ればそれは立派な誹謗中傷だろう。いじめである。平然とそんなことをしてしまう人がいることに、失望すら感じる▼では自分は、本当に誰かに対して誹謗中傷をしていないだろうか。あなたはだろうか▼特にSNSでは匿名性が高いこともあり、誹謗中傷が横行している。SNSを中心に活動している推しのアイドルがいるのだが、彼に向けられた誹謗中傷をX(旧ツイッター)で目にしたことがある。元気で明るいキャラの彼でも、今までのSNSでの数多くの心無い誹謗中傷を受け、ステージに立つのが怖くなり毎日泣いていたと語っていた。SNSは、誰でも簡単に自分の意見を投稿することができる。そこで何気なく発した一言が誰かを傷つけているかもしれない。SNSだし大丈夫、相手は有名人だから大丈夫というのはあまりに危険な考えだ▼言葉というのは不思議なもので、誰かを救う道具にも傷つける道具にもなりうる。自分の言葉の発信力と影響力に、しっかりと向き合っていきたい。(椿)

英語を学ぶ意味について知る

杏林大学教授による講演会

5月15日(金)の放課後、視聴覚室Bで杏林大学外国語学部教授の倉林秀男先生による講演会「高校で学んだ英文法の先にあるものは?」大学で英語を学ぶと見えてくる英語の姿」が開かれた。

大学で学ぶ英語

倉林先生は杏林大学外国語学部の教授で、『ヘミングウェイで学ぶ英文法』や『英文解釈のテオリア』の著者だ。今回、倉林先生が錦城学園出身で縁があったため、錦城でも講演を開く機会が出来たという。倉林先生は講演で、高校の授業では普段は扱わないような、大学に入学した後に学ぶ発展的な英語を紹介してくれ



「大学で英語を楽しむために、基礎を固めていないといけないよ」

た。先生は元々高校教員で、その時は受験で受かる勉強をすればいいと考えていたが、大学教員になってから多と押さえて欲しいことがあると考えていたが、先生が「ず」と、pend「垂れ下がる」という風に単語を分解していき、最終的に「垂直二等分線」と訳せることを導き、錦城生の感嘆の声が上がった。このように、大学では今までに学んできたことを活かして新しいことを学ぶ。高校までは単語を覚えてさえいればなんとかなることもあるが、それでは英語を楽しんで使えるようにはならないのだという。だから高校の時から大学で学ぶ内容を楽しめるくらい基礎をしっかりと固めていないといけないのだと語った。

参加した中村哲平さん(21)は、見知った表現に別の意味があることを知ると、英語の新しい言語としての一面を知ることができたようで面白かったと振り返った。

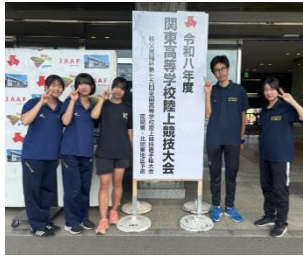
英語はわからないことだらけ

講演会後、英語に関することを倉林先生に取材した。英語が出来ると人の中で英語はどういった物なのか気になったため聞いてみると、倉林

陸上競技部 関東大会出場

上の大会に進めるように頑張っている

6月12日(金)から15日(月)にかけて茨城県水戸信用金庫スタジアムにて行われた関東高等学校陸上競技大会に、女子5000m競歩で大野彩希さん(2D)、男子5000m競歩では関原優斗さん(3I)が、出場した。結果、大野さんは12位、関原さんは14



陸上競技部提供

に出られたことへの嬉しさを語った。関東大会に向け、練習時間を多くとっていたそうだが、今後はもっとタイムを縮められるように夏合宿などで練習を重ね、もつと上の大会へ進めるように頑張っていきたいと意気込んだ。さらに関原さんは今回自分を応援してくれた後輩に対し、「これからも応援を大切にしたいです」と話してくれた。(苺)

「論文を読むことが大切」

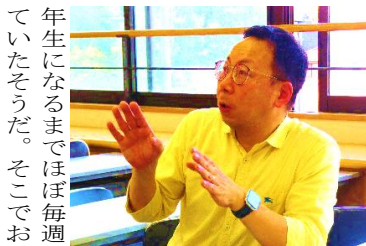
1学年小論文オリエンテーション実施

7月1日(水)6時間目、1年生を対象に探究活動部主任の奥嶋陽翔先生による小論文オリエンテーションが行われた。奥嶋先生は始めに、実際に大学の小論文課題で出題されたテーマを紹介。理学部では爬虫類の卵は白っぽい種が多いのに、鳥類の卵は色や模様が多様性があるのはなぜかという科学的なテーマが課されたり、医学部では恋人に別れを告げるメッセージを書けと問われたりするなど、文理にとらわれない幅広いテーマが出題されるようだ。



「小論文はオーディション」

他にも、先生は「探究はエンタメ、論文はボタン、小論文はオーディション」というおもしろい視点を提供してくれた。特に小論文は、合格者を選抜する教授目線で考えると、自分の研究にプラスの影響を与えてくれる人材かどうかを判断するオーディションなのだという。そして、「小論文を書く力をつけるには論文や本を読むことが大切です」と話し、未来の研究者に教授が自分の知見を伝える論文というボタンを受け取って教養をつけようと言を締めた。(翠)



「規則正しい生活をしよう」

先生が小学2年生くらいの時、近所にアメリカ人のおばあさんが住んでいて、中学一年生になるまでほぼ毎週通っていたそう。そこでお菓子を食べながら英会話教室のような事をしていたという。英語に興味を持ったきっかけは、他言語の存在を子どもの時から知っていたことが大きかったのではないかと先生は振り返る。インタビューをしていて印象的だったのは、倉林先生にとって英語の存在が、学生の時からいつまでも身につかない、わからないことだらけの教科で今でもそれは変わっていないと答えてくれたことだった。プロとして



錦城祭では、ぜひみんな来てね

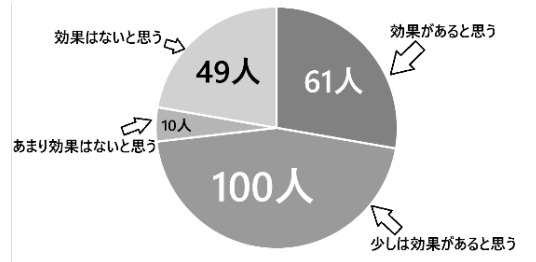
金子さんによると、中央委員会が以前から取り組んでいる「こプロ」の一企画として今回のかき氷出店が形になったという。「お祭りを通じて地域との結びつきを強くできたらし嬉しいです。小平の子どもたちと交流できるような企画を考えました」と金子さんは語る。金子さんは「子どもたちと対面するのが今から楽しみです」と意気込んだ。この企画は地域向けで、お祭りに行っても錦城生がかき氷を食べることはできない。ただ、錦城祭でも中央委員会はかき氷の出店を予定しており、錦城生も食べられる。石井さんは「錦城祭では、ぜひ食べに来てくださーい!」と呼び掛けた。(菊)

気を付けて、自転車に乗ろう!

第2回青切符制度アンケート実施

青切符施行から3か月が経ち、錦城生の現状を知るために、6月29日~7月14日で再びアンケートを実施し、220件の回答を得た。青切符を切られたことのある人は前回1人いたものの、今回のアンケートではいなかった。また、警官に注意された人は、前は1名だったものの、今回9名いた。その9名の注意された内訳は、歩道での運転が3人、逆走が2人、並走2人、無灯火走行、スマホ利用が1名ずつだった。錦城生はスマホ利用などの罰則が厳しい違反をしている人は少ないのかもしれない。523号裏の「危ない走行方法」の中から、今までにしまったことのあるものを複数回答可で聞いてみると、一番多かったのが97人で並走、次いで43人の手放し運転、31人のイヤホンしながら運転となった。青切符制度に効果があるのかという実感を知ると、22.4%にあたる48人が効果ある、45.3%にあたる97人が少しは効果があると思うと回答した。一方で、4.7%にあたる10人が効果はないと答えた。最後に前回の特集を読んで、気を付けるようになったことを聞いてみると、「制動距離を気にするようになり、速度を低めにしている」、「友達と帰るときは並走しないようにしている」、「停止するときは早めにブレーキをかける」という声が見られた。また、ヘルメット実態調査を受け、ヘルメットを着用するようになったという人もいた。

青切符制度は効果があると思いますか



夏休みに入り、普段は通らない道を自転車で行くということも増えるだろう。施行から時間が経ち、気が緩んできている人もいるかもしれない。今一度、自分の乗り方について、考えてみてほしい。(桃)

進め方をブラッシュアップ

2学年探究発表



他クラスの生徒と発表し合う

7月15日(水)の午後、2年生はクラスごとや、クラス間の合同で探究発表が行われ、哲平さん(2I)は、昨年、現国の授業で寝ている人が多かったことで、どうやれば授業に興味を持ってもらえるかが気になったことが探究のきっかけだった。今後は、錦城国語科の教員に、どのようにして授業をつくらせているのか、どのようなことを意識して授業をしているのかについて聞き、考えを深めていく予定だという。

「なぜピンク・フロイドの『ザ・ダーク・サイド・オブ・ザ・ムーン』はあれほどの売り上げをたたき出すことができたのか」について探究しているという渥美有都さん(2G)。自分がロックを好きということをきっかけにして、探究を始めた。当時の若者にどれほどの影響を与えたのか、またその後のロックがどのような変貌を遂げたのかについて探究しているという中村

大会報告

▽体操部 6月21日(日)男子インターハイ予選 団体4位入賞

▽図書委員会 7月14日(火)7月14日(火)

▽錦城祭実行委員会本部 7月14日(火)



生物部は、523号で募集をしていたウスラの里親をまだ募集しています!ニナは水浴びが好き!シロジは土遊びが好き!クロジは元気に鳴いています!詳細を知りたい人は生物部部室まで来て下さい!(蓮)